

2. 1999（平成 11）年度から 2008（平成 20）年度（第 16 期から第 20 期）までの活動

1. はじめに

1995 年の兵庫県南部地震後の災害対策基本法の大幅改正や地震調査研究推進本部の設置等を主な内容とする地震防災対策特別措置法の制定、1999 年からの「地震予知のための新たな観測研究計画」への移行等により、地震予知連絡会を取り巻く環境に大きな変化がもたらされた。地震予知連絡会はこの間、地震予知に関わる社会の要請に応えるため、地震予知連絡会の在り方やより適切な運営方針等を検討し、変革してきた。

この 10 年間には、多くの被害地震が発生した。地震予知連絡会においても、それらについて多くの時間を割いて議論してきたが、その度に新たな発見が報告され、地震予知に向けて着実に理解を深めることに貢献してきた。

ここでは、1999 年度から 2008 年度までの活動の概要について述べる。

2. 地震予知連絡会の在り方と運営方針等の変遷

1998 年 8 月 5 日の測地学審議会建議「地震予知のための新たな観測研究計画の推進について」及び 1999 年 4 月 23 日の地震調査研究推進本部「地震調査研究の推進について―地震に関する観測、測量調査及び研究の推進についての総合的かつ基本的な施策―」によって、地震予知連絡会は、地震予知、特に観測研究に関わる情報の交換と学術的な検討についてその責任を果たすことが要請されるようになった。このような背景のもと、1999 年 8 月 23 日開催の第 134 回地震予知連絡会において、地震予知連絡会の活動の在り方について検討を行う目的で、「地震予知連絡会在り方検討ワーキンググループ」（主査：大竹副会長）を設置した。このワーキンググループは、2001 年 4 月 13 日開催の第 142 回地震予知連絡会で、委員の異動に伴い「地震予知連絡会在り方検討ワーキンググループ（第 2 次）」（主査：島崎副会長）に引き継がれた。検討の結果、トピックスの充実と恒常的なトピックス選定のための部会として、トピックス部会を設置した。また、広範な観点からの議論ができるように、本会議へのオブザーバーの依頼やトピックスにおける外部招待者の講演も積極的に導入し、集中的に議論することで、深い理解に役立てるようになった。さらに、会議を通じて得られる共通認識が正しく国民に伝わるように会議の実況公開を会議場の隣室で実施するようになった。

2003 年 7 月の科学技術・学術審議会建議「地震予知のための新たな観測研究計画（第 2 次）の推進について」において「地震予知連絡会が指定したこれまでの特定観測地域等の在り方を抜本的に見直す必要がある。」とされ、2005 年 8 月 30 日に地震調査研究推進本部で「今後の重

点的調査観測について」が策定されるなど、地震予知連絡会が指定した特定観測地域等の在り方の見直しが求められていた。このため、2007 年 5 月 14 日開催の第 173 回地震予知連絡会で「地震予知連絡会 今後の活動展開の検討ワーキンググループ」（主査：島崎副会長）を設置し、地震予知連絡会の運営の在り方、特定観測地域・観測強化地域の在り方等について検討することになった。ワーキンググループの報告を受けて、第 176 回地震予知連絡会（2008 年 2 月 18 日）において地震予知連絡会の特定観測地域・観測強化地域の指定を解消した。さらに、2008 年 5 月 7 日に設置された「地震予知連絡会 今後の活動展開の検討ワーキンググループ（その 2）」（主査：島崎副会長）で地震予知連絡会の運営のあり方及び議論するテーマのあり方等について検討した。その結果、地震予知研究にとって興味深い現象や問題等を「重点検討課題」として選定し、これについて集中的に検討することとした。また、「重点検討課題」の選定、並びに課題検討のための資料作成機関の選定等を担当する「重点検討課題運営部会」を設置し、「トピックス」を「重点検討課題」に統合した。この運営方針は、第 180 回地震予知連絡会（2009 年 2 月 16 日）から実施され、2008 年 7 月 17 日の科学技術・学術審議会建議「地震及び火山噴火予知のための観測研究計画の推進について」で示された「『1 地震・火山現象予測のための観測研究の推進』を図るために、地震活動・地殻変動等に関するモニタリング結果を中心とした情報交換を行い、モニタリング手法の高度化を検討する」という地震予知連絡会の役割を果たしていくことになる。

3. 地震等への対応

この 10 年間においても多くの地震が発生した。主なものに、平成 12 年（2000 年）鳥取県西部地震、平成 13 年（2001 年）芸予地震、平成 15 年（2003 年）十勝沖地震、平成 16 年（2004 年）新潟県中越地震、平成 19 年（2007 年）能登半島地震、平成 19 年（2007 年）新潟県中越沖地震、平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震が挙げられる。地震予知連絡会においても、定例の本会議における集中的な議論に加えて、臨時の本会議や地域部会を開催し、その地震の解釈、意味するもの、前兆現象の有無等の議論を行ってきた。また、観測研究がある程度進んだとみられる時期には、固有の地震をトピックスとして選定し、観測・研究結果の報告と議論を行ってきた。

この他、スロースリップや深部低周波微動・超低周波地震等の新たに発見された現象についても、その解釈や意味するもの、その影響について議論してきた。

議論の概要については、「6. 本会議，各部会の活動」を参照されたい。

4. 地震予知連絡会会報

関係機関や大学から地震予知連絡会に報告された観測・研究成果は，地震予知連絡会会報として年2回定期的に発行している。この10年間では，第62巻から第81巻まで発行した。また，過去の会報についてデジタル化を進め，全巻について作業が完了した。デジタル化された会報は，地震予知連絡会ホームページにおいて公開している。

5. 第16期から第20期までの人事・組織

第16期から第20期までの人事・組織は次の通りである。各期の委員は，別掲の委員名簿に示されている。

1999年4月16日第132回地震予知連絡会において，第15期までに引き続き，茂木委員が会長に選出され，会長により大竹委員と石井委員が副会長に指名された。また，特定部会長には大竹副会長が，強化地域部会長には石井副会長がそれぞれ指名された。

2001年4月13日第142回地震予知連絡会において，会長に大竹委員が選出され，会長から島崎委員と岡田委員が副会長に指名された。また，強化地域部会長には島崎副会長が，特定部会長に岡田副会長がそれぞれ指名され，両部会長より両部会の委員が指名された。また，予知連のあり方について検討するワーキンググループの主査に島崎副会長が任命され，ワーキンググループの委員が指名された。茂木前会長を名誉委員とすることが承認された。

2003年4月14日第142回地震予知連絡会において，会長に大竹委員が選出され，会長から島崎委員と岡田委員が副会長に指名された。また，強化地域部会長には島崎副会長が，特定部会長には岡田副会長が，トピックス部会長には岡田副会長がそれぞれ指名された。

2005年4月7日第163回地震予知連絡会において，会長に大竹委員が選出され，会長から，島崎委員と岡田委員が副会長に指名された。また，中日本部会長には島崎副会長が，東日本部会長，西日本部会長には岡田副会長が，トピックス部会長には橋本委員がそれぞれ指名された。

2007年4月9日第172回地震予知連絡会において，会長に大竹委員が選出され，会長から，島崎委員と平原委

員が副会長に指名された。また，東日本部会長，中日本部会長には島崎副会長が，西日本部会長には平原副会長が，トピックス部会長には平田委員がそれぞれ指名された。

6. 本会議，各部会の活動

地震予知連絡会では，年4回（5月，8月，11月，2月）の定例の本会議を開催している。本会議では，関係機関からの全国地震活動と地殻変動の報告と質疑の後，各地域についての詳細検討，話題提供等を行い，さらに，会議毎に選定されるトピックスに関する集中的な議論を行った。検討結果の主なものについては，毎回会議終了後に記者説明会を行った。

定例の本会議の他，組織運営に関わる議論や大地震発生に伴う緊急的な議論のため，必要に応じて臨時の本会議を開催し，集中的な議論を行った。この10年間では，本会議は合計で49回開催した。

また，この本会議の他に，必要に応じて個別的あるいは緊急的テーマについて検討するため，観測強化地域における地震および地殻活動を対象として検討する強化地域部会，特定観測地域における地震および地殻活動を対象として検討する特定部会が設置されていた。第163回地震予知連絡会からは，地域部会をそれまでの強化地域部会と特定部会から，東日本部会，中日本部会，西日本部会の3つの部会に再編した。この10年間で，これらの地域部会を6回（打ち合わせ会を1回）開催した。

以下に，本会議と各部会の概要について述べる。

第132回地震予知連絡会（1999年4月16日）

第16期の委員による役員の選出が行われた。

次回以降の連絡会でトピックスとして取り上げるテーマについて議論された。

第133回地震予知連絡会（1999年5月17日）

全国地震活動，地殻変動の概況の報告および東海，伊豆，北海道，中部の地殻活動等について，大学，関係観測研究機関等より観測・研究成果の報告および議論が行われた。1998年9月3日に岩手山付近で発生したM6.1の地震に関連して，地下の膨張源に起因する震源断層付近の応力変化等について報告された。

トピックスとして，「近畿地方の最近の地殻活動」について関係機関からこれまでの観測・調査結果の報告があり，現在の状況に関する議論が行われた。

第134回地震予知連絡会（1999年8月23日）

全国地震活動，地殻変動の概況の報告および近畿，東海，伊豆，関東地域の地殻活動等について，大学，関

係観測研究機関より観測・研究成果の報告および議論が行われた。1999 年 8 月 21 日に発生した和歌山県北部の地震（M5.4）に関して、発生場所とこの地域の地震活動との関連等について報告された。

また、1999 年 8 月 17 日に発生したトルコのアナトリア断層西端付近で発生した地震について、発生場所が地震空白域として指摘されていたことや北部の断層が動いたと推定されることが報告された。

トピックスとして、「陸域及び沿岸海域の活断層調査結果」について報告および議論が行われた。

第 135 回地震予知連絡会（1999 年 11 月 15 日）

全国の地震活動、地殻変動の概況の報告および東海、中国・四国、九州の地殻活動等について、大学、関係観測研究機関より観測・研究成果の報告および議論が行われた。瀬戸内海の愛媛・香川県境沖では 1999 年 3 月頃から微小地震の活動に関する中央構造線との関連性等について議論された。

トピックスとして、1999 年 8 月 17 日に発生したトルコの地震（M7.4）と 1999 年 9 月 21 日に発生した台湾中部の地震（M7.7）に関連して、大学・関係機関等からこれまでの観測・調査結果について報告および議論が行われた。

また、10 月に行われた GPS 国際シンポジウムにおける GPS による地殻変動検出等の動向について報告された。

第 136 回地震予知連絡会（2000 年 2 月 21 日）

全国の地震活動、地殻変動の概況の報告および北海道、東海地方の地震・地殻活動等について、大学、関係観測研究機関より観測・研究成果の報告および議論が行われた。東海地方では、フィリピン海プレートスラブ内で発生する微小地震の活動の低下等について報告された。また、北海道東方沖地震（2000 年 1 月 28 日、M6.8）に関連して、この領域で解放された地震エネルギーに着目した長期的地震ポテンシャルの評価について報告された。

トピックスとして、「GPS による地殻変動検出」と題して、GPS 観測の最新の結果について、大学・関係機関からの報告および議論が行われた。

第 137 回地震予知連絡会（2000 年 5 月 15 日）

全国の地震活動、地殻変動の概況の報告及び、東海・中部地方の地殻活動等について、大学、関係観測研究機関より観測・研究成果の報告および議論が行われた。東海地方の固着域におけるフィリピン海プレート内の地震活動度が低調であること等について議論された。

トピックスとして、2000 年 3 月 27 日から始まった有珠山の活動に関連した地殻活動及び最近の活断層調

査について、大学・関係機関からこれまでの観測・調査結果の報告および議論が行われた。

平成 12 年度第 1 回地震予知連絡会特定部会（2000 年 6 月 20 日）

2000 年 6 月 8 日に熊本県地方で発生した M4.8 の地震について観測・研究成果の報告および議論が行われた。

平成 12 年度第 1 回地震予知連絡会強化地域部会（2000 年 7 月 2 日）

2000 年 6 月 26 日からの三宅島の火山活動に関連した地震活動、神津島近海で起きた 7 月 1 日の M6.4 の地震、周辺の地殻変動の概況の報告及びその他の観測・研究成果の報告および議論が行われた。

第 138 回地震予知連絡会（2000 年 8 月 21 日）

全国の地震活動、地殻変動の概況の報告及び、関東・東海・中部地方の地震活動・地殻活動等について、大学、関係観測研究機関より観測・研究成果の報告および議論が行われた。2000 年 6 月 26 日から始まった三宅島の火山活動に関連した地震活動とそれに引き続き活発化した新島・神津島周辺の地震活動、関連して観測されている地殻変動等について、各観測研究機関から観測結果の報告があり、これに基づき、今回の一連の活動のメカニズムについてモデルが提示され、議論された。

第 139 回地震予知連絡会（2000 年 10 月 10 日）

平成 12 年（2000 年）鳥取県西部地震とそれに関連する西南日本の地殻活動等について、大学、関係観測研究機関より観測・研究成果の報告および議論が行われた。この地震は唐突に発生したものではないことが議論となったが、さらに広域的にみて、西南日本は南海地震後の静穏期から次の南海地震前の活動期に入っていることが議論された。

第 140 回地震予知連絡会（2000 年 11 月 24 日）

全国の地震活動、地殻変動の概況の報告及び、北海道、関東、東海、九州地方の地殻活動等について、大学、関係観測研究機関より観測・研究成果の報告および議論が行われた。2000 年 6 月末からの新島・神津島・三宅島周辺の地殻活動に関して、1962 年の三宅島の火山活動が今回のダイク貫入に影響を及ぼしたとのモデルが示された。

トピックスとして、「平成 12 年（2000 年）鳥取県西部地震に関連した地殻活動」について、大学・関係機関からこれまでの観測・調査結果の報告があり、議論された。

第 141 回地震予知連絡会（2001 年 2 月 19 日）

全国の地震活動、地殻変動の概要の報告及び、北海道、関東、東海・中国・沖縄地方の地殻活動等について、大学、関係観測研究機関より観測・研究成果の報告および議論が行われた。2001 年 1 月 12 日に発生した M5.1 の兵庫県北部地震の群発地震的な活動等に関して議論された。

トピックスとして、「日本海東縁部の地殻活動」に関し、大学・関係各機関からこれまでの観測・調査研究の報告があり、議論された。

第 142 回地震予知連絡会（2001 年 4 月 13 日）

第 17 期の委員による役員の選出が行われた。

平成 13 年（2001 年）芸予地震および静岡県中部の地震について観測・研究成果の報告および議論が行われた。

第 143 回地震予知連絡会（2001 年 5 月 21 日）

全国の地震活動、全国の地殻変動等について観測・研究成果の報告および議論が行われた。富士山周辺の低周波地震活動、平成 13 年（2001 年）芸予地震後に発生した豊後水道地域、日向灘地域における M5 クラスの地震等について議論された。

トピックスとして、「地震予知における電磁気現象」について集中的に議論された。

平成 13 年度第 1 回地震予知連絡会強化地域部会（2001 年 7 月 27 日）

東海地域における非定常地殻変動の検出について国土地理院から報告があり、それに関連して大学、関係観測研究機関等から観測・研究成果の報告および議論が行われた。

第 144 回地震予知連絡会（2001 年 8 月 20 日）

全国の地震活動、全国の地殻変動等について観測・研究成果の報告および議論が行われた。GPS 観測により東海地域で発見された異常な地殻変動の経過と解釈、2001 年 2 月 25 日に発生した M5.8 の福島県沖の地震後の半年間にわたる地殻変動等について議論された。

トピックスとして、「兵庫県南部地震の前兆」について集中的に議論された。

第 145 回地震予知連絡会（2001 年 11 月 19 日）

全国の地震活動、全国の地殻変動等について観測・研究成果の報告および議論が行われた。東海地域の非定常地殻変動、過去の辺長測量や水準測量結果を含めた議論がなされた。また、Hi-net の観測により発見された西南日本の地殻底部を発生源とする低周波微動について報告された。

トピックスとして、「沈み込みプレート境界におけるアスペリティ」について集中的に議論された。

第 146 回地震予知連絡会（2002 年 2 月 18 日）

全国の地震活動、全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。東海地域の非定常地殻変動、2001 年 12 月 18 日に発生した M7.3 の与那国島近海の地震等について報告された。

トピックスとして、「海底諸観測の開発状況」について報告および議論された。

第 147 回地震予知連絡会（2002 年 5 月 20 日）

全国の地震活動、全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。東海地域の非定常地殻変動の経過、及び 2002 年 5 月 8 日から発生した伊豆半島東方沖の群発地震活動について、過去の活動や推定されるダイクモデルについて報告された。

トピックスとして、「東海地域のスロースリップとその意味」について報告および議論された。

第 148 回地震予知連絡会（2002 年 8 月 19 日）

全国の地震活動、全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。東海地域の非定常地殻変動の経過、福島沖プレート境界での非地震性すべりとアスペリティ等について報告された。

トピックスとして、「地殻活動予測シミュレーションモデルの開発と実用化へ向けての問題点」について報告および議論された。

第 149 回地震予知連絡会（2002 年 11 月 18 日）

全国の地震活動、全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。東海地域の非定常地殻変動の経過、房総半島のスロースリップ、八丈島付近の群発的な地震活動等について報告された。

トピックスとして、「2000 年鳥取県西部地震のその後」について、さまざまな観測・研究の成果、およびそこから得られた新しい知見に関する報告および議論された。

平成 14 年度第 1 回地震予知連絡会強化地域部会（2002 年 12 月 5 日）

東海地域の非定常地殻変動に関する観測・研究成果の報告および議論された。

第 150 回地震予知連絡会（2003 年 2 月 17 日）

全国の地震活動、全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。東海地域の非定常地殻変動の経過、室戸岬における 1946 年南海地震の発生

を含む約 110 年間の上下変動の経年変化等について報告された。

トピックスとして、「活断層の深部構造と地震・地殻活動（その 1）」について報告および議論された。

第 151 回地震予知連絡会（2003 年 4 月 14 日）

第 18 期の委員による役員選出が行われた。

三ヶ日に設置されている気象庁の体積歪計で検出された歪変化について、各種の観測成果の報告および議論が行われた。

第 152 回地震予知連絡会（2003 年 5 月 19 日）

全国の地震活動、全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。東海地域の非定常地殻変動と三ヶ日の歪み変化の経過、東南海地震当日の水準測量から推定されたプレスリップ等について報告された。また、島根県から広島県にかけての地域で北北西—南南東に並ぶように発生した M4 クラスの地震について議論された。

トピックスとして、「低周波微動・低周波地震」について報告および議論が行われた。

平成 15 年度第 1 回地震予知連絡会特定部会（2003 年 6 月 6 日）

2003 年 5 月 26 日に発生した宮城県沖の地震に関して、メカニズム、断層モデル、想定される宮城県沖地震への影響等について観測・研究成果の報告および議論が行われた。

第 153 回地震予知連絡会（2003 年 8 月 18 日）

全国の地震活動、全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。2003 年 7 月 26 日に発生した宮城県北部の地震について集中的に報告および議論が行われた。この他、東海地域の非定常地殻変動の経過、東海地域の固着域における地球潮汐のトリガー作用等について報告された。

第 154 回地震予知連絡会（2003 年 10 月 21 日）

平成 15 年（2003 年）十勝沖地震に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。1952 年十勝沖地震との関係、前兆現象の有無、1894 年に釧路沖で発生した地震との関連等について議論された。

第 155 回地震予知連絡会（2003 年 11 月 17 日）

全国の地震活動、全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。東海地域の非定常地殻変動の経過、平成 15 年（2003 年）十勝沖地震の余

震活動と余効変動等について報告された。また、豊後水道の低周波地震活動に関して、スロースリップという現象の地域性、発生間隔、時定数の違いについて議論された。

トピックスとして、「地震や地殻変動に関する観測の精度」について報告および議論が行われた。

第 156 回地震予知連絡会（2004 年 2 月 16 日）

全国の地震活動、全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。東海地域の非定常地殻変動の経過、平成 15 年（2003 年）十勝沖地震に先行した地震活動度の低下等について報告された。

トピックスとして、「地震発生のトリガリング」について報告および議論が行われた。

第 157 回地震予知連絡会（2004 年 5 月 17 日）

全国の地震活動、全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。東海地域の非定常地殻変動の経過、平成 15 年（2003 年）十勝沖地震関連、東北地方のスラブ内の地震活動の活発化、近畿北部における微小地震活動の低下等について報告された。

トピックスとして、「活断層の深部構造と地殻活動（その 2）」として、糸魚川—静岡構造線研究の最近の成果について報告および議論が行われた。

第 158 回地震予知連絡会（2004 年 8 月 23 日）

全国の地震活動、全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。東海地域の非定常地殻変動の経過、DD トモグラフィによる震源断層とアスペリティのイメージング、平成 15 年（2003 年）十勝沖地震前の地震活動度変化、丹波山地の地震活動度の低下等について報告された。

トピックスとして、「応力・メカニズムの現状評価」について報告および議論が行われた。

第 159 回地震予知連絡会（2004 年 9 月 17 日）

2004 年 9 月 5 日に紀伊半島南東沖で発生した地震に関する観測・研究成果の報告および議論がなされた。この地震の発震機構や断層モデルについて議論された。

第 160 回地震予知連絡会（2004 年 11 月 4 日）

平成 16 年（2004 年）新潟県中越地震に関する観測・研究成果の報告および議論がなされた。この地震の余震活動や断層モデル、震源域の地質構造、先行地震、日本海東縁部の地震空白域との関連等について議論された。

第 161 回地震予知連絡会（2004 年 11 月 15 日）

全国の地震活動，全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。2004 年 9 月 5 日の紀伊半島南東沖の地震の断層面，平成 16 年（2004 年）新潟県中越地震の余震活動や地下構造との関係，東海地域の非定常地殻変動の経過，平成 15 年（2003 年）十勝沖地震の余効変動等について報告された。

トピックスとして，「2004 年パークフィールド地震」について報告および議論が行われた。

第 162 回地震予知連絡会（2005 年 2 月 21 日）

全国の地震活動，全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。東海地域の非定常地殻変動の経過，2004 年 11 月 29 日に釧路沖で発生した M7.1 の地震の震源過程や地殻変動，新潟県中越地震の地質構造及び余震分布等について報告された。

トピックスとして，「東南海・南海地震の前兆的变化」について報告および議論が行われた。

平成 16 年度第 1 回特定部会打ち合わせ会（2005 年 3 月 17 日）

釧路、根室付近の地殻活動について、北海道を中心とする関係機関による観測・研究成果の報告および議論が行われた。

第 163 回地震予知連絡会（2005 年 4 月 7 日）

第 19 期の委員による役員選出が行われた。

釧路・根室沖付近の地震・地殻変動に関して 3 月 17 日に行われた特定部会打ち合わせ会の報告がなされた。

2005 年 3 月 20 日に発生した福岡県西方沖の地震に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。

第 164 回地震予知連絡会（2005 年 5 月 16 日）

全国の地震活動，全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。東海地域の非定常地殻変動の経過，福岡県西方沖の余震分布と海底活構造調査結果等について報告された。

トピックスとして，「スマトラ地震・津波」について報告および議論が行われた。

第 165 回地震予知連絡会（2005 年 8 月 22 日）

全国の地震活動，全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。2005 年 8 月 16 日に宮城県沖で発生した M7.2 の地震について集中的に議論された他，東海地域の非定常地殻変動の経過と低周波地震・短期的スロースリップの発生，2005 年 7 月 23 日に千葉県北西部で発生した M6.0 の地震等について報告

された。

第 166 回地震予知連絡会（2005 年 11 月 21 日）

全国の地震活動，全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。海地域の非定常地殻変動の経過，2004 年釧路沖の地震以降のプレート間すべりの経過，四国西部の深部低周波微動に同期した短期的スロースリップの発生等について報告された。

トピックスとして，「宮城県沖地震」と 2005 年 8 月 16 日宮城県沖の地震」について報告および議論が行われた。

第 167 回地震予知連絡会（2006 年 2 月 20 日）

全国の地震活動，全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。宮城県沖でのプレート間すべりの状況，東海地方で発生した移動性の短期的スロースリップ等について報告された。

トピックスとして，「東南海・南海地震のアスペリティ」について報告および議論が行われた。

第 168 回地震予知連絡会（2006 年 5 月 22 日）

全国の地震活動，全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。4 月中旬から始まった伊豆半島東方沖の地震活動，相似地震のデータから推定した北海道太平洋岸のプレート間すべり等について報告された。

トピックスとして，「十勝沖・根室沖のプレート間カップリングの時空間的变化」について報告および議論が行われた。

第 169 回地震予知連絡会（2006 年 8 月 21 日）

全国の地震活動，全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。東海地域の非定常地殻変動（スロースリップ）に関して，発生期と停滞期における地震活動や地殻変動の違いについて議論された。

トピックスとして，「沈み込み帯における非地震性すべり (1) 東海スロースリップ」について報告および議論が行われた。

第 170 回地震予知連絡会（2006 年 11 月 20 日）

全国の地震活動，全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。2006 年 11 月 15 日に千島列島で発生した M7.9 の地震等について報告された。

トピックスとして，「沈み込み帯における非地震性すべり (2) 短期的スロースリップ」について報告および議論が行われた。

第 171 回地震予知連絡会（2007 年 2 月 19 日）

全国の地震活動、全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。千島列島東方で、海溝軸を挟んで 2006 年 11 月、2007 年 1 月に発生した地震の関連について議論された。

トピックスとして、「近畿の地殻変動」について報告および議論が行われた。

第 172 回地震予知連絡会（2007 年 4 月 9 日）

第 20 期の委員による役員選出が行われた。

平成 19 年（2007 年）能登半島地震に関する観測・研究成果の報告および議論がなされた。歪みが少ない領域で M7 クラスの大地震が発生したことに関して、その意味、過去の履歴、断層の活動履歴を調査することによる想定の可能性等の議論が行われた。

第 173 回地震予知連絡会（2007 年 5 月 14 日）

今後の地震予知連絡会の活動展開についてワーキンググループ設置が承認された。

全国の地震活動、全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。平成 19 年（2007 年）能登半島地震について海底地形調査の結果や SAR 干渉解析の結果等が報告された。

トピックスとして、「連動型巨大地震」について報告および議論が行われた。

第 174 回地震予知連絡会（2007 年 8 月 20 日）

第 1 回トピックス部会及び第 1 回今後の活動展開の検討ワーキンググループについて報告があった。

平成 19 年（2007 年）新潟県中越沖地震、全国の地震活動、全国の地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。平成 19 年（2007 年）新潟県中越沖地震の震源断層面の傾斜方向や発生した場所の特徴等について議論された。また、千葉県東方沖において発生したスロースリップについて、1996 年および 2002 年のものとの比較について報告された。

第 175 回地震予知連絡会（2007 年 11 月 19 日）

トピックスとして、「地震予知連絡会が実施してきた地域指定のレビュー」について報告および議論が行われた後、「地震予知連絡会 今後の活動展開の検討ワーキンググループ」の中間報告等があった。

全国の地震活動、地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。西南日本の深部低周波微動・超低周波地震、短期的スロースリップの移動、平成 19 年（2007 年）新潟県中越沖地震の高精度な余震分布や地震に伴う活褶曲の成長、スマトラ南部の地震系列に先

行したバックグラウンドの地震活動に変化等について報告された。

第 176 回地震予知連絡会（2008 年 2 月 18 日）

「地震予知連絡会 今後の活動展開の検討ワーキンググループ」の報告が行われた。

全国の地震活動、地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。東海地方の深部低周波地震活動・短期的スロースリップの発生及び過去の発生履歴の抽出、岩手県釜石沖の固有地震が予想された場所・時期・規模で発生したこと等が報告された。

トピックスとして、「地震破壊の始まりの検知とその後の予測可能性」について報告および議論が行われた。

第 177 回地震予知連絡会（2008 年 5 月 19 日）

全国の地震活動、地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。2008 年 5 月 8 日に発生した茨城県沖の M7.0 の地震のメカニズムや前回の地震や茨城県南部の地震との関連等について集中的に議論された。また、2008 年 5 月 12 日に中国四川省で発生した M7.9 の地震について報告があった。

トピックスとして、「地震活動の時間変化と大地震の関係」について報告および議論が行われた。

平成 20 年度第 1 回地震予知連絡会東日本部会（2008 年 7 月 2 日）

平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震に関して、どのような地震であったか、どのような場であったか、先行現象等があったのかという観点で観測・研究成果の報告および議論が行われた。

第 178 回地震予知連絡会（2008 年 8 月 18 日）

全国の地震活動、地殻変動等に関する観測・研究成果の報告および議論が行われた。平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震について、第 1 回東日本部会の概要についての報告の後、各機関からの報告と集中的な議論が行われた。また、岩手県沿岸北部の地震関連、福島県沖の地震発生前のプレート間すべりの発生、茨城県沖の地震の短期的な発生確率、について報告された。

第 179 回地震予知連絡会（2008 年 11 月 17 日）

地震予知連絡会における今後の議論の進め方について、「地震予知連絡会 今後の活動展開の検討ワーキンググループ（その 2）」から検討結果の報告があり、了承された。

全国の地震活動、地殻変動などに関する観測・研究成果の報告が行われ、議論された。

トピックスとして、「観測技術の最前線」について報告および議論が行われた。

第 180 回地震予知連絡会（2009 年 2 月 16 日）

重点検討課題の課題選定と議論の進め方等について第 1 回重点検討課題運営部会の報告があった。

全国の地震活動、地殻変動などに関する観測・研究成果の報告が行われ、議論された。

また、第 182 回地震予知連絡会で議論される重点検討課題「プレート境界深部すべりに係る諸現象」について趣旨説明が行われた。